

支 援

町田市学校支援実行委員会

実行委員長 白井 一生

2010年ボランティア登録者 100名突破

2010年1月からの1年間だけで、ボランティア登録者が100名を超えました。これもひとえに学校やボランティアコーディネーターの皆様方の働きかけのおかげと感謝申し上げます。ボランティアIDの上2ケタが10で始まる人が2010年の登録者です。2009年の登録者は09で始まり、今年の登録者は、11で始まっています。学校支援センターから紹介するボランティアの方が、いつころの登録なのかを判断する目安にしてください。

今年度、学校支援センターから紹介したボランティアの数は延べ100名を超え、紹介を受けた学校数は延べ50校近くになります。なかなか成立しなかったり、データが古くて連絡がとれなかったりという報告もありますが、今後改善していく予定です。

また、最近、MGNのモデル校を引き受けてくださっている学校からも人材の検索をしているという報告をいただいております。この登録者の人材データバンクは、町田市が誇るシステムですので、さらに使い勝手が良いシステムとなるように改良していきたいと思っています。ボランティアコーディネーターの皆様には、個人情報取り扱いにはくれぐれも気をつけていただき、MGNシステムをより一層活用していただければと思います。年末には新規のモデル校を10校程度募集する旨のプリントを配布し、多くの学校からご応募いただきました。結果につきましては、後日、連絡いたします。

また、副校長先生やコーディネーターの皆さんから、気軽に問合せのお電話をいただくようになりました。子どもたちのために、座して待つのではなく、動いて人材を確保していくことが大切だと思います。

何かありましたら、気軽に学校支援センターにご一報ください。

町田第五小学校「ふれあいサタデー」文部科学大臣賞受賞

全国で一斉にボランティア活動をする日、第2回「メイク・ア・チェンジ・デー」(Make a CHANGE Day 実行委員会主催、朝日新聞社共催)で、町田第五小学校の「ふれあいサタデー」における地域住民と児童との技能体験教室の取組が、文部科学大臣賞に選ばれました。

昨年度の感謝状贈呈式の実践発表で報告されたので、ご記憶の方も多いかと思います。今年度も学校支援センターは参観させていただき、「本物を使いプロの方々に指導していただいている」と感じました。

コーディネーターの皆さんにも、コーディネートの際に、本物、実物、プロの方(プロだった方)を念頭において、学校と地域とをつないでほしいと思います。児童・生徒への訴える力、感動などが深まるはずですよ。



氣の活用 com 岡村隆二講師をお迎えして

1月19日(水)、20日(木)、21日(金)と、町田第五小学校では、野球、相撲、駅伝、剣道……等、日本の一流アスリートのコーチとしてご活躍され成果を挙げておられる岡村隆二氏(NPO 法人氣の活用 com 代表)をゲストティーチャーとしてお迎えし、五年生が授業を受けました。

スポーツだけではなく勉強でも、大切な場面で自分の力を十分発揮できるように、砂上の楼閣ではなく確実な「土台」の上に楼閣(技術・学力)が建つように、実際に「心」を使い「体」を動かして、さまざまな体験をしながら学びました。

当日は学校公開日で、参観されていた保護者からも好評だったようです。中学校の部活や授業、小学校の高学年でやっていただいてみてはいかがでしょうか。詳しくは、学校支援センターにお問い合わせください。



町五小 五年「こころ一番の底力」
心と体のビックリ体験
活動の様子



3 学期の予定・ニュース

① 都のフォーラム 1月29日(土)町田市よりVC14名参加

「東京都教育支援コーディネーターフォーラム 2011」へ参加いただきありがとうございました。町田市からは、14名のコーディネーターと支援センターから2名が参加しました。都内各地域の取組状況を見聞したり、企業の取り組みを授業に生かす研修をしたりしました。今後の活動に生かしたいと思います。

② 2月21日(月)感謝状贈呈式 ボランティアコーディネーター多数が表彰される

今年度の感謝状贈呈式では、学校支援ボランティアコーディネーターが12名表彰されます。学校支援において、コーディネーターの比重が大きくなったことをうかがわせ、うれしいことだと思います。来年度に向けて、どの学校においてもコーディネーターがなくてはならない存在となるように、がんばっていきましょう。

③ VC活動報告締め切り

年度末を迎え、活動や年間のまとめ等、お忙しい時期かと思いますが、今年度の活動のうち、謝礼の対象となるのは3月7日まで(同日までに学校支援センターへ活動日誌を提出)です。文部科学省の委託事業であり、単年度決算という制約上、活動が集中する3月の年度末の活動が計上できないのはまことに心苦しい限りですが、ご理解の上、もし、学校に余裕がありましたら、ボランティア予算での対応をよろしくお願いします。

④ 町田第一中学校ボランティアコーディネーター決定

町田第一中学校のボランティアコーディネーター2名が、1月18日付で決定しました。

野澤 滋享 様 渋谷 多可子 様 です。

本格的な活動は来年度からになると思いますが、中学校のコーディネーターさんにはご支援・ご協力をよろしくお願いします。これで、小学校41校(70名)、中学校18校(24名)の合計94名になりました。

今年度も取組まれた 南大谷中学校 フラッグアート

フラッグアートは、校歌に♪花と絵と響く歌声〜が歌われている本校にふさわしい活動です。

今年度は、主催・協賛の団体名を布地に印刷し、扱いやすい画材を準備。中学校・大学の先生方から短時間ですが指導を受け、異年齢混在のグループで製作が開始されました。

猛暑の午後、4時間の長丁場でしたが、小学生のアイディアの実現に大学生が一生懸命協力したり、大人が大学生に知恵を貸したりしながら、自由で多彩な手法の作品ができました。大人には、児童・生徒・学生の平素と異なる面を見られたこともうれしい収穫でした。はじめて飾った恩田川沿いでは、「いいわねえ、素敵。」「気持ちが和みますね。」などの反応をいただきました。

このような取組を発信できることは、本校にとって大きな喜び・財産です。お力添えをいただいている皆様、ありがとうございます。（南大谷中学校 岡本喜美子校長）



24色を塗らなきゃいけないデザインになって、「面倒だな」と思ったけれど、「もういいや」と思ったとき「もう少しやろう！」と（大学生が）言ってくれて最後までがんばれた。これからは、なんでもすぐあきらめず、「もう少しがんばってみよう」と思いました。絵の具にない色を混ぜて作るのが楽しかった。

（小学5年女子）

1枚目の隅を塗るのが大変で印象に残った。2枚目を作るとき、スポンジでポンポンするのが面白かった。

美術は大変だけど楽しかったので、またやりたい。（小学5年女子）

自分の思ったとおりを作品にできて、良かった。大学生といろいろな描き方をやってみたので楽しかった。

（中学1年男子）

なんとなく参加したが、自由に作品を作るととても楽しかった。色を組み合わせたり、力を合わせて完成させたりするのは、一人で作るよりも楽しくできました。（中学2年女子）

「フラッグアート作り」はとても貴重な体験となりました。普段関わる機会が少ない小中学生と一緒に作業を行えたこともそうですが、来年、教育実習を控える私にとって、今の中学校、特に美術科の雰囲気味わうことができたことは、何よりも貴重であったと思います。（玉川大学3年ビジュアル・アーツ学科 学生）

2年目を迎えたフラッグアートは、本校生徒の活動の様子を地域の方々に知っていただく良い機会になりました。副校長の役割は、使用場所の特定や使用器具を調達して、東京都南多摩東部建設事務所長に「河川敷地一時使用届」を出して許可をいただくこと。「交通事故防止、河川事故防止など安全対策に万全を期します。」とか「気象情報には、十分に注意します。」「万一損傷を生じた場合には、こちらで一切の責任を負います。」等責任の重さに一抹の不安を感じました。

しかし、川は風の通り道でフラッグが良くはためき「この作品は、きれいですね。」「いつもの散歩コースが明るく感じます。」など地域の皆様からたくさん声をかけていただき、生徒とともに大変うれしく思いました。（南大谷中学校 薦田副校長）

前任の中山先生の後を引き継いで今回のフラッグアートの企画に携わらせていただきました。前回と違い、今回は中学校のカリキュラムから選択美術がなくなったため、参加生徒の確保が問題となりました。

まず、この企画に参加しやすくするために、必修美術で1年生から3年生まで全校生徒に色彩構成としてフラッグのデザインを考える題材に取り組みせました。また、美術部の夏休みの活動にも位置づけて参加者を募ることで参加する生徒の年齢にも幅をもたせることができました。

当日の活動では大学生と中学生・小学生が組めるように異年齢でグループを作り、個人作業ではない制作活動を体験し、言語・非言語のコミュニケーションが促進されることをねらいとしました。出来上がった作品点数としては前回に及びませんでした。集団で何かを作る活動について考えることができた試みだったと思います。ご参加いただきました玉川大学の方々、地域の方々、ご協力ありがとうございました。



(南大谷中学校 藤嶋 美術教諭)

どのような取り組みになるのか予想がつかず多少の心配があったが、製作が進む中で児童生徒、学生ともに活き活きとした活動が見られた。学生はサポート役以上に、児童生徒の新しい世代の感覚や考え方に触れ、逆に学ぶ事も多かったように思われる。最初のイメージにそった作品とモダンテクニックや偶然性を基にした作品などの多様な作品がそれぞれの班で制作され良かった。

(玉川大学 芸術学部 高橋愛助教)

2年目を迎え、内容・画材・準備など取り組みを改善し発展させることができました。特に、小学生、中学生、大学生、そして社会人が垣根なくアートを楽しめる機会になったこと、また商店街だけでなく恩田川遊歩道へと装飾の場がひろがったことはすばらしいことだと思います。

今後は、さらに多くの方々に参加していただけるよう工夫していければと思います。

(玉川大学 芸術学部 中島千絵助教)

《地域の方の声》

玉川大学の先生、学生の指導のもと、地域の小学生、中学生が、南大谷中学校の教室で地域住民の見守るなかで、手作りの独創的なデザインのフラッグアートを目を輝かせて製作しました。歩行者天国の緑と風の恩田川のほたり、挨拶の飛び交う賑やかな玉川学園駅前北口商店街と南口商店街に、時期を変えて展示された作品は、玉ちゃんバスともマッチして、地域住民に、素晴らしい出来栄を披露してくれました。

今後も、地域の住民が、こどもからおとなまで、こころの交流を深め、手づくりの温かい作品を通して、住みよいまち、いつでも声を掛け合えるまちであり続けられればと願っております。

(玉川学園町内会会長 山田勝也)

商店街には11月16日～同30日、都民銀行前から町田寄りの街路灯26本に掲示させていただきました。

恩田川沿いの掲示が好評だったようで掲示期間が延長されたため、玉川学園地域のギャラリーウォーク期間を過ぎ、年末イルミネーションの飾りつけと重なってしまい残念でした。作品は玉大芸術学部の先生、学生さんの指導でどれも力作であることが感じられ、道行く人も見上げていました。今回は昨年に引続き2回目ということで支援の輪も広がり、学校、地域間の交流が深められる点で良い企画だと思います。私共商店会は23年度をスタートとして、メルヘンを含む「アートで彩る街玉川学園」(仮称)と題し、夏まつりでの町田五小児童のポスター展、ギャラリーウォークなどと共に、この「フラッグアート」も加わる形となり、層の厚い街(商店街)づくりに夢が膨らみます。係わる関係者のご努力に敬意を表するとともに、この企画が更に充実したものに進展することを願っています。(玉川学園商店会会長 高橋靖昭)

平成21年、玉川学園80周年イベントとして南大谷中学校の生徒が、玉川大学ビジュアルアーツ科、玉川学園町内会、商店会皆様との地域コラボでフラッグアート40枚を作成、玉川学園大通りの街路灯に飾りつけ、路行く人々に喜ばれました。町田市学校支援ニュースにも紹介され、評判にもなりました。2年目の今年は南大谷町内会にも協賛参加して頂き、恩田川の遊歩道にも飾りつけることにしました。南大谷中学校で夏休みのサマーオープンスクールで美術の先生、玉川大学ビジュアルアーツ科の先生・大学生のご指導のもと「フラッグアート」を作成しました。町内会、商店会、学校支援センター、読売新聞の記者の方々も参加され、校長先生・生徒との楽しい美術作成、まさに学校と地域の協働コラボレーションでした。

(南大谷中学校ボランティアコーディネーター 前野 紀夫)